

令和5年度 第6回 旭川市行財政改革推進委員会 会議録(要旨)

1 日 時 令和5年9月25日(月) 18:30~20:18

2 場 所 旭川市総合庁舎第2応接室

3 出席者 長谷川(芳)会長, 佐々木委員, 杉山委員, 曾根委員, 長谷川(愛)委員, 靱岡委員
(事務局)中村副市長, 浅利行財政改革推進部長

行財政改革推進部 行政改革課 梶山課長, 及川課長補佐, 水沢

公共施設マネジメント課 門脇課長, 石橋主査

総合政策部 財政課 小澤課長, 万年課長補佐

総務部 人事課 中山課長補佐

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

次第

資料1 諮問書(写し)

資料2 旭川市行財政改革推進プログラムについて

資料3 旭川市行財政改革推進プログラム2020

資料4 旭川市行財政改革推進プログラム2020の進行状況

資料5 本市を取り巻く現状と課題

資料6 次期旭川市行財政改革推進プログラムの視点

6 議事要旨

(1) 開会

(2) 諮問

中村副市長から長谷川会長に諮問書(旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について)を交付し, 挨拶があった。

(3) 旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について

ア 旭川市行財政改革推進プログラムについて

イ 旭川市行財政改革推進プログラム2020の進捗について

ウ 本市を取り巻く現状と課題

(ア)人口減少と少子高齢化の進行

(イ) 財政状況

(ウ) 施設の老朽化対策と施設保有量の最適化

(I) 職員数の推移と適正な人員配置

エ 次期行財政改革推進プログラムの考え方について

事務局から配付資料に基づき説明があり, 質疑応答。概要は次のとおり。

【委員】

前回プログラムで財源確保目標額を56億6千万としていたところそれを上回る実績となった。これはどう評価すればよいか。

【事務局】

プログラム策定当初に設定した、収支不足額を解消するための財源確保額56.6億円に対し、実際に確保できた額が117.4億円となったということである。

物価高騰による物件費の増などもあったが、公共事業費等における年度間の事業費の調整など支出の抑制と、収入の確保に努めたことによるもので、これらの取組により、財政調整基金残高も当初目標30億円に対し、令和4年度末で88億円まで増加した。

しかし、財政調整基金残高は中核市の中で相対的に非常に少なく、行財政改革を進めなければならない。人口減少もあり、施設も老朽化しているなど、状況は明るくないことを知っていただきたい。市役所が立ちゆかなくなると、市民サービスができなくなるが、そうならないよう内部マネジメントするために、行財政改革推進プログラムは非常に重要である。

【委員】

旭川市の人口は減っており出生率も伸びない。総人口が減れば当然職員数も減ると思うが、人口を前向きに増やしていく議論をした方が良いのか、それとも現実問題として減っていく現状の中で議論をした方が良いのか、市としての考え方を聞きたい。

【事務局】

市としても人口減少への対策をとるが、減少していくことは間違いない。その前提の中でどうすればよいかという議論をお願いしたい。

一般的に人口が減れば職員が減ると考えるが、新たな国の政策や、多様化、複雑化している住民ニーズにも対応していかなければならないため、人口減にもかかわらず職員は減らない状況にある。今後人件費は上がっていくことが想定されるが、上がった人件費分の行政サービスが削られるのは本末転倒。そうならないように職員数を抑えなければならないが、どのように抑えるか議論が必要。

【委員】

デジタル化を推進することで人件費抑制の一助とするというような議論は可能か。

【事務局】

可能。

【委員】

前回のプログラムで、人口について人口ビジョンに基づいた数字を出しているが、今回プログラムでは新たに人口推計をして掲載するのか。

【事務局】

新たに人口を推計することはせず、前回同様に令和2年改訂版旭川市人口ビジョンを基に掲載するが、実際の数値が出せる部分については、現状もあわせて記載することになる。人口は将来必ず減るということを確認していただけたらと思う。

【委員】

人件費については厳しく考えていかなければいけないと思う。

また、現在、北海道への企業誘致として千歳市のラピダスの話題があるが、細かく見ると札幌圏の話なので、旭川圏での企業誘致をより積極的に行うということは、今回プログラムの改訂に当たって議論して良いのか。

【事務局】

良い。

【委員】

市税の内訳の大まかな割合を教えてほしい。

【事務局】

大きなものでは、市民税(個人・法人)が4割強(令和3年度決算で44%), 固定資産税が3割5分程度(同決算で34.9%)である。

【委員】

AIチャットボットは、質問に答えていくことで答えを覚えていくということだったが、チャットボットが設置されているホームページのアクセス数がないと発達していかないのでは。アクセス数はどの程度あるのか。

【事務局】

トップページはかなりのアクセス数があり、直近一週間だと旭山動物園のページよりも多い。ただ、個別のページになるとアクセスが少ないものが多い。

【委員】

旭川市の個別のページは、どこに情報があるか分かりにくい。SNSも様々あるが、発信方法が惜しい。新しいものはどんどん取り入れ広げてほしいが、そこに対する市職員のアプローチの方法を今後考えていった方が良い。市ホームページはリニューアル予定ということだが、以前リニューアルした時のようにアドレスが変わるとアクセスできなくなってしまい、せっかく情報を紹介してもリンクが切れてしまう。

【委員】

暮らしのアプリもあり、リンクしていければ。暮らしのアプリのトップページは分かりやすい。

【委員】

そういったものが活用されれば、人件費などの課題に対応できるようになるのではないか。

【事務局】

問合せに24時間対応可能となるので、サービス向上とともに問合せ電話の削減により業務効率化につながればと考えている。

【委員】

チャットボットに愛称を設定するなど市民が使いやすいサービスを進めてほしい。

【事務局】

チャットボットのほかにもAI文字起こしなど、他のツールも活用して、業務効率化を図っていきたい。

【委員】

こうした取組の市民への周知が大事。全戸配付の広報誌とライナーでどんどん取り上げてもらい、周知をしていくべき。

【委員】

デザイン思考とは何か。

【事務局】

デザイナーの思考法を参考にしたもの。様々な手法はあるが、概ね利用者の視点に立ってよりよいサービスを考え直す手法をいう。

(4) 閉会